高温に対する農作物等の技術対策（１０月）

令 和 6 年 １ 0 月 １ １ 日
農 林 水 産 部 担 い 手 支 援 課

気象庁の発表によれば、千葉県では今後１か月程度、平年に比べて気温が高い状態が続く見込みです。また、１か月予報においても、東日本の向こう１か月の平均気温は高い確率が 80%となっています。病害虫の多発が懸念されるほか、生育の前進化など農作物への影響も懸念されることから、対策資料を作成しましたので、現地指導の参考にご活用ください。

１　大豆

・高温傾向が続くことから、害虫の発生に注意する。ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガについては発生予報で多いとされていることから、特に注意する。

２　施設共通

・高温傾向が続くことから、害虫の発生に注意する。防除指針に基づいて、オオタバコガ、ハスモンヨトウ、スリップス類(ネギアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ)、コナジラミ類（ウイルス病対策を含む）などの防除に努める。
・好湿性病害や細菌病の発生に注意し、予防的に殺菌剤の散布を行う。
・循環扇・換気扇を利用し、施設内の空気を循環させる。

３　露地野菜

・高温傾向が続くことから、害虫の発生に注意する。ヨトウムシ類、タバコガ類などが発生しやすくなるため、防除指針を基に適期に害虫の防除を行う。
・生育の前進化が予想されるため、こまめに生育状況を確認し、生育ステージに応じた適切な管理作業を心がける。

４　果樹（全般）

・土壌水分の蒸散を防ぐため、樹の周りに敷わらを行う。草生園では水分競合を抑えるために草刈りを行い、刈り取った草は樹の周りに敷く。
・まとまった降雨がない場合、特に苗木には、適宜かん水を行い、生育促進を促す。

５　花き

・ハダニ類、スリップス類などが発生しやすくなるので、防除指針に基づき防除する。

６　畜産

（１）家畜管理

・畜体への散水・散霧により体感温度を下げる。
・細霧装置は湿度 50%以上で体感温度が上昇するので注意する。
・常に新鮮な水が飲めるよう、水圧の確保や水槽の清掃を行う。
・密飼いを避ける。
・発汗等でミネラルが失われるため、ミネラル類を多めに給与する。
・高温下では酸化ストレスが亢進するため、ビタミン類を給与する。
・採食や反芻に伴う唾液の分泌が少なくなるため、重曹などの緩衝材を給与してルーメン内 pH 低下を抑える。
・異常家畜の早期発見、早期治療に努める。

（２）畜舎管理

・気温、湿度を考慮し、換気扇よる畜舎の換気、送風機による家畜の体感温度の上昇を抑制する。
・畜舎回りの除草や空気の流れを遮るものを除去し風通しを良くする。
・給餌機や給餌ライン、飼槽を点検・清掃し、飼料の腐敗とカビ発生を防止する。
・温湿度計等で日頃から畜舎内の環境をチェックする。